

学校教育目標	「心も体も元気な岡村っ子」 ★おもいやりをもち、かがやく自分を求めて、むちゅうになって共に学び、みらいを創っていく子 ○学習を楽しみながら、課題をもってその解決や達成に主体的に、粘り強く取り組む子を育てます。(知) ○自分と友だちの心と体を大切に、前向きに問題解決できる子を育てます。(徳) ○運動を楽しみながら、課題をもってその解決や達成に粘り強く取り組む子を育てます。(体) ○公共心を磨き、自律し、地域で活躍する子を育てます。(公) ○多様性を認め、社会につながる問題等を友だちと考え、その解決や達成に粘り強く取り組む子を育てます。(開)				
	学校概要 創立 64 周年 児童生徒数: 368 人	学校長 鴨野 幸規 主な関係校: 岡村中学校(藤の木中学校 滝頭小学校 磯子小学校 山王台小学校 藤の木小学校 汐見台中学校)	副校長 池村 聡一郎	2 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岡村中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <心身ともにたくましく生きる力> 自分で考えて主体的に行動できる子ども 粘り強く前向きに問題解決できる子ども 多様性を認め、協働できる子ども	岡村中学校 磯子小学校 滝頭小学校 岡村小学校	友だちや地域の人たちと積極的に関わり、 めあてや問題解決に粘り強く取り組む子 ・地域の夏祭りや清掃活動に、1中3小学校がそれぞれ参加する。(年2回) ・岡村中ブロックで年2回の授業研究会及び情報交換会を行う。 ・岡村中学校で年2回、児童生徒交流事業を実施する。 ・岡村中学校の生徒が3小学校で職場体験を行う。(年1回一日) ・ブロック内で教務主任会を行い、情報交換等を行う。(年3回)

中期取組目標 「個人の尊厳」を大切に、資質能力の育成を「真正の教育」を基盤にして推進し、学習の基本姿勢を「探究」することに置く。 ・横浜市立カリ・マネ要領に示す三つのつながり(授業・人・学びの場)を重視するとともに、自分づくり教育の視点を具体的な資質・能力として全ての教育活動におけるねらいとし、子どもにとって魅力ある教育課程を編成、実施する。 ・特別支援教育の充実に人権教育の視点を加え、誰一人取り残さない教育の実現を具体的に構築し、全ての子どもに居場所を作り、個人の尊厳を重視し、自己肯定感を高めることができる教育環境づくりを実践、研究する。 ・社会情動的コンピテンシー「メタ認知」「知的好奇心」「知的謙虚さ」「共感性」に着目して、「目標に向かう力」と「他者と協働する力」を育成して、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、教育DX推進によるGIGAスクール構想の実現を目指す。
--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 研究グループ	①特別支援教室運営、個別最適な学習の推進、MEXCBT構想実現で、誰一人取り残さない教育の実現をめざす。 ②一人ひとりの学びを大切に、主体的・対話的で、深い学びの充実を進める。 ③学習習慣形成のために、家庭学習や読書活動の充実を進める。
徳 豊かな心 担当 指導グループ	①朝のあいさつ運動、なかよし班活動や人権関連活動など、児童主体による活動で心の育成の充実を進める。 ②「特別の教科 道徳」を核とする道徳教育の充実、教科横断的発展、教育課程の精選・開発を進める。 ③「Y-Pアセスメント」と「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の推進によるエビデンスに基づく人権教育を実現する。
体 健やかな体 担当 体育研究部	①めあてをもって友だちと一緒に健康・体力づくりに取り組む体育科授業を精選・開発する。 ②幼保小連携事業、小中一貫教育、地域との交流活動による心身の健全育成を9年間持続・拡充するよう推進する。 ③運動を楽しむ子を育てるために、体育科の充実、縄跳びタイムやランニングタイムを実施する。
公 自分づくり教育 (キャリア教育) 担当 学習指導評価グループ	①体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自己表現を楽しみながら、一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。 ②自分づくりパスポートを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見直し振り返り、変容や成長を自己評価できるようにする。 ③上郷、西湖、日光宿泊体験学習を系統化し、自分づくりの経験の場として位置付ける。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①月1回、いじめ防止対策委員会を開催し、案件の経過確認を行い、再発防止に努める。 ②年に2回、いじめに関する児童アンケートを実施し、早期発見及び指導の機会とする。 ③「人権教育」を重点にして、児童理解・児童指導に関わる教職員研修を、年3回実施する。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 教務会、C研、岡村小PJT	①風通しの良い風土を形成し、教職員が働き甲斐を感じることによる不祥事防止を維持する。 ②シェアリーダーシップ制及びメンター指導による人材育成と働き方改革を推進する。 ③生成AI・ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。
児童生徒指導 人権教育 担当 指導グループ	①子どもの課題や変容を正確に把握するために、学級アセスメント調査を年2回実施する。 ②正しい判断力や行動力を育てるために、社会的スキル横浜プログラムを積極的に活用する。 ③問題の早期発見に努め、チーム教職員集団の共通理解の下、その解決に取り組む。
多文化共生 担当 国際教室担当	①外国の言語や習慣、文化等に触れさせ、全校児童に多文化共生の意識をもたせ、豊かな人権感覚を醸成する一助とする。 ②外国籍及び外国につながる児童の支援のため、指導企画課やひまわりなどの関係機関との連携を図る。 ③外国籍及び外国につながる児童の状況を的確に見取り、DLAによる学習言語能力測定やJSLカリキュラムの推進を図る。
特別支援教育 担当 指導グループ	①不登校、保健室登校等の子どものために、特別支援教室(通称:ほっとる一む)を実施する。 ②個別支援学級の子どもの成長を促進するために、学習環境や交流活動等を工夫し適切な配慮を促進する。 ③子どものよりよい育みを推進するために、専門機関(療育センターなど)との連携を進める。
地域学校協働活動 担当 地域学校協働本部	①保護者による登下校時の見守り活動について、学校運営協議会・地域学校協働本部で協議し安全対策の充実を図る。 ②読み聞かせ、クラブ活動、地域行事等に対して地域学校協働本部が検討し積極的に参画する。 ③学校運営協議会・地域学校協働本部による「学校-地域-保護者」の連携を強化しコミュニティスクールを実現する。